

# 病害虫発生予報 第2号

富山県農林水産総合技術センター所長

## 5月の病害虫発生予報

### 【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	発生時期	作物名	病害虫名	発生量	発生時期
水稲	イネミズゾウムシ	やや多い	並	果樹	リンゴの褐斑病	やや多い	並
	イネドロオイムシ	並	並		リンゴのキンモンホソガ	少ない	並
	イネゾウムシ	並	並		リンゴのハダニ類	やや多い	並
大麦	うどんこ病	並	—		ニホンナシの黒星病	並	並
	赤かび病	並	早い		ニホンナシのナシヒメシンクイ	やや多い	並
大豆	タネバエ	並	並		ニホンナシのハダニ類	並	並
	ネキリムシ類 (タマナヤガ)	並	早い		ブドウの灰色かび病	並	並
野菜	ネキリムシ類 (タマナヤガ)	並	早い		ブドウのべと病	並	並
	タマネギのべと病	やや多い	—		モモのせん孔細菌病	やや多い	並
	タマネギの白色疫病	やや多い	—		モモのモモハモグリガ	やや少ない	並
	タマネギ・白ねぎのネギアザミウマ	並	並	チューリップの褐色斑点病	やや多い	—	
果樹	リンゴの黒星病	少ない	並	チューリップの球根腐敗病	並	—	
	リンゴのうどんこ病	並	並	チューリップのモザイク病	並	—	
				花き球根	チューリップのアブラムシ類	やや多い	—

富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 病理昆虫課

TEL 076-429-5249 FAX 076-429-7974

情報参考 URL

<http://www.pref.toyama.jp/branches/1661/index.html>

# I 水 稲

## 1 イネミズゾウムシ

- (1) 予報内容 発生量：やや多い  
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・前年6月5日（被害盛期）の調査では、被害葉率が1.43%で平年（0.97%）よりやや高かった。

- (3) 防除対策

- ・防除指針 34 ページ参照

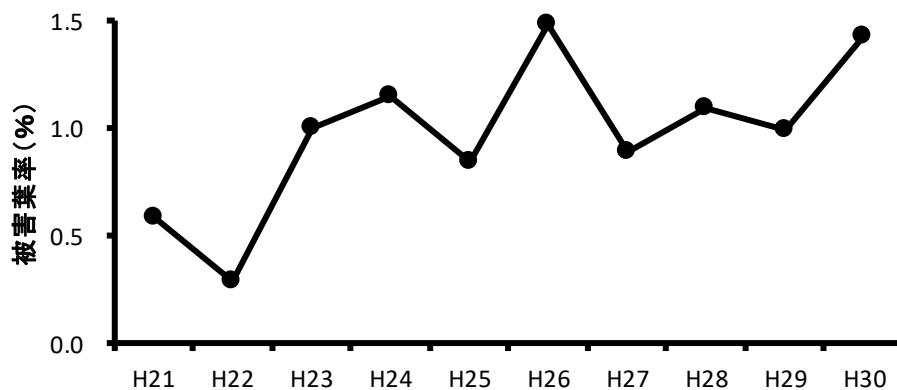


図 イネミズゾウムシの被害葉率の年次推移(6月5日調査)

## 2 イネドロオウムシ

- (1) 予報内容 発生量：並  
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

- ・前年6月20日（被害盛期）の調査では、被害葉率が0%で平年（0.00%）並であった。

- (3) 防除対策

- ・防除指針 35 ページ参照

## 3 イネゾウムシ

- (1) 予報内容 発生量：並  
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

- ・前年6月5日（被害盛期）の調査では、被害葉率が0.01%で平年（0.01%）並であった。

- (3) 防除対策

- ・防除指針 34 ページ参照

## Ⅱ 大 麦

### 1 うどんこ病

- (1) 予報内容            発 生 量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・ 4月25日の調査では、発病度が0.8で平年(1.5)並であった。
- (3) 防除対策
  - ・ 防除指針 48ページ参照

### 2 赤かび病

- (1) 予報内容            発 生 量：並  
                            発生時期：早い
- (2) 予報の根拠
  - ・ 本年の出穂後10日間平均気温は13.7℃で、平年(12.7℃)よりやや高かったが、日降水量は1.3mmで、平年(3.8mm)より少なかった。
  - 【早発要因】
  - ・ 生育観測ほの県平均の出穂期が4月14日で、平年(4月22日)より8日早かった。
- (3) 防除対策
  - ・ 防除指針 49ページ参照

## Ⅲ 大 豆

### 1 タネバエ

- (1) 予報内容            発 生 量：並  
                            発生時期：並
- (2) 予報の根拠
  - ・ 5月の降水量はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除対策
  - ・ 早期播種や堆肥及び緑肥施用ほ場では、被害が多くなるので防除を徹底する。
  - ・ ほ場の排水に努める。
  - ・ 防除指針 51、53ページ参照

### 2 ネキリムシ類 (タマナヤガ)

- (1) 予報内容            発 生 量：並  
                            発生時期：早い
- (2) 予報の根拠
  - ・ フェロモントラップによる4月の誘殺数は平年並であった。
  - 【早発要因】
  - ・ フェロモントラップによる初誘殺日は3月1日で、平年より2週間程度早かった。
- (3) 防除対策
  - ・ 出芽後定期的にはほ場を見廻り、食害の早期発見に努める。

- ・ほ場周辺の雑草は、は種の一週間程前に刈取る。
- ・防除指針 51 ページ参照

## IV 野菜

### 1 ネキリムシ類（タマナヤガ）

- (1) 予報内容            発生量：並  
                              発生時期：早い
- (2) 予報の根拠
  - ・フェロモントラップによる4月の誘殺数は平年並であった。

【早発要因】

  - ・フェロモントラップによる初誘殺日は3月1日で、平年より2週間程度早かった。
- (3) 防除対策
  - ・出芽後定期的にはほ場を見廻り、食害の早期発見に努める。
  - ・ほ場周辺の雑草は、は種・定植の一週間程前に刈取る。
  - ・防除指針 82～144 ページのネキリムシ類の項を参照

### 2 タマネギのべと病

- (1) 予報内容            発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
  - ・これまでの発生量は平年よりやや多い。
- (3) 防除対策
  - ・排水対策を徹底する。
  - ・防除指針：114ページ参照

### 3 タマネギの白色疫病

- (1) 予報内容            発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
  - ・これまでの発生量は平年よりやや多い。
- (3) 防除対策
  - ・排水対策を徹底する。
  - ・防除指針：114ページ参照

### 4 タマネギ・白ねぎのネギアザミウマ

- (1) 予報内容            発生量：並  
                              発生時期：並
- (2) 予報の根拠
  - ・5月の気温および降水量はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除対策
  - ・防除指針：白ねぎ111～112, タマネギ115ページ参照



#### 4 リンゴのキンモンホソガ

- (1) 予報内容 発生量：少ない  
発生時期：並
- (2) 予報の根拠  
【少発要因】  
・前年の発生量は平年より少なかった。
- (3) 防除対策  
・防除指針 150、155、156、159、160 ページ参照

#### 5 リンゴのハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：やや多い  
発生時期：並
- (2) 予報の根拠  
【多発要因】  
・前年の発生量は平年よりやや多かった。
- (3) 防除対策  
・防除指針 151、157 ページ参照

#### 6 ニホンナシの黒星病

- (1) 予報内容 発生量：並  
発生時期：並
- (2) 予報の根拠  
・前年の発生量は平年並であった。  
・5月の降水量はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除対策  
・散布間隔が開き過ぎないように注意する。  
・芽基部病斑、罹病葉や罹病果を速やかに除去し処分する。  
・葉が付着しやすいよう側枝の配置を見直す。  
・防除指針 162、164、165、166、169 ページ参照

#### 7 ニホンナシのナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容 発生量：やや多い  
発生時期：並
- (2) 予報の根拠  
【多発要因】  
・前年の発生は平年よりやや多かった。
- (3) 防除対策

- ・ 5月中旬、下旬の防除を確実に実施する。
- ・ 防除指針 162、166、167、170 ページ参照

## 8 ニホンナシのハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：並  
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
  - ・ 前年の発生量は平年並であった。
- (3) 防除対策
  - ・ 防除指針 162、168 ページ参照

## 9 ブドウの灰色かび病

- (1) 予報内容 発生量：並  
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
  - ・ 前年の発生量は平年並であった。
  - ・ 5月の降水量はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除対策
  - ・ 開花直前および落花直後が重要防除時期である。開花前から徒長枝の発生に注意して棚面を明るくし、通風をよくする。また、ハウス栽培では過湿にならないよう換気を図る。
  - ・ 罹病した花穂が認められた場合、直ちに摘み取り処分する。
- (4) 防除指針 172、174、175 ページ参照

## 10 ブドウのべと病

- (1) 予報内容 発生量：並  
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
  - ・ 前年の発生量は平年並であった。
  - ・ 5月の降水量はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除対策
  - ・ 5月上旬（展葉5～6枚時）から10日間隔で防除を実施する。
  - ・ 罹病した花穂が認められた場合、直ちに摘み取り処分する。
  - ・ 防除指針 172、174、175 ページ参照

## 1 1 モモのせん孔細菌病

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**  
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

### 【多発要因】

- ・春型枝病斑の発生量が平年よりやや多かった。

- (3) 防除対策

- ・春型枝病斑は見つけ次第、せん除する。
- ・防除指針 182、184、186 ページ参照

## 1 2 モモのモモハモグリガ

- (1) 予報内容 発生量：**やや少ない**  
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

### 【少発要因】

- ・前年の発生量は平年よりやや少なかった。

- (3) 防除対策

- ・防除指針 182、184、185、186 ページ参照

## VI 花き・球根

### 1 チューリップの褐色斑点病

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**

- (2) 予報の根拠

### 【多発要因】

- ・4月20日調査では、予察圃場(無防除)における発病株率が63.3%で平年(54.4%)よりやや多かった。

- (3) 防除対策

- ・発病株の抜き取りと薬剤散布による防除を確実に行う。
- ・防除指針：198 ページ参照

### 2 チューリップの球根腐敗病

- (1) 予報内容 発生量：並

- (2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は平年並であった。

- (3) 防除対策

- ・発病株の抜き取りを徹底する。



- ・停滞水とならないように圃場の排水に努める。

### 3 チューリップのモザイク病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・前年の発生量は平年並であった。
- (3) 防除対策
  - ・モザイク病発病株の抜き取りとアブラムシ類の防除薬剤を定期的に散布する。
  - ・防除指針：199、223～224 ページ参照

### 4 チューリップのアブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
  - 【多発要因】
    - ・予察圃場への有翅虫の初飛来日は4月7日で、平年(4月24日)より17日早く、飛来数もやや多かった。
- (3) 防除対策
  - ・生育後半まで定期的に薬剤を散布する。
  - ・防除指針：199、223～224 ページ参照

- ・農薬の使用にあたっては、使用回数、使用時期等の使用基準を遵守する。
- ・周辺作物や住宅地等への農薬の飛散防止に努める。

# 北陸地方 3か月予報

(5月から7月までの天候見通し)

平成31年4月24日  
新潟地方气象台 発表

## <予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

5月 天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

6月 平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。

7月 平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

## <向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>

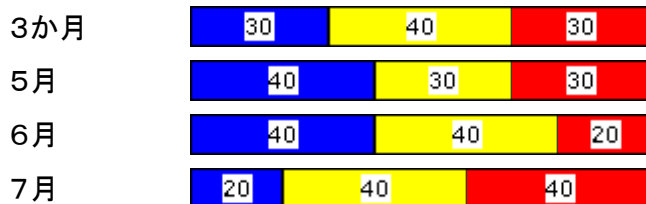
### 【気 温】

[北陸地方]



### 【降 水 量】

[北陸地方]



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)